

CONTENTS

- 2/3 情勢・ジュゴンの糞で県が久志調査へ
 - 国際・米軍廃棄物への国際責任
 - 4/5 現地 座込み 7000 日集会
 - 「沖縄のつどい」参加報告
 - 6/7 交流広場
 - コラム・サンとシチ
 - わんさか通信★ジュゴンのわ
- 



6月5日、キャンプシュワブから約 500 メートル沖の長島の沖合で、サンゴの卵が帯状に浮遊しているのを、ヘリ基地反対協海上チームのメンバーが確認・撮影しました（琉球新報 6/7）。2018 年に埋め立て海域から移植されたオキナワハマサンゴ9群体のうちすでに7群体が死滅しています。人為的に移植されたサンゴは死に、辺野古・大浦湾のサンゴ全体の生息環境も悪化しています。しかし、サンゴたちは生きるために産卵し、これ以上の環境破壊に警告を発していると思います。

ジュゴンもサングも生きている～Hope Spotを海洋保護区に～

6月末、日本自然保護協会の安部真理子さんは、大浦湾チリビシのミドリイシ群集と瀬嵩の塊状ハマサンゴ群集のリーフチェックをおこないました。一部で白化が見られましたが、全体としては2016年の大規模な白化現象からの回復過程にあると報告されています。

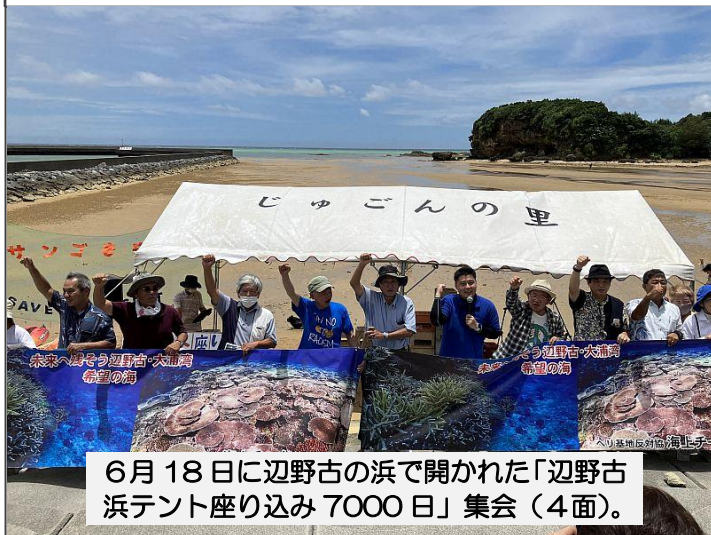
昨年7月に名護市久志の海岸で見つかった糞が、ジュゴンの糞であることが沖縄県のDNA鑑定で確認されたことは、前号で報告しました。埋め立て工事開始前には豊かな海草も場であった辺野古の浅瀬は、残念ながら無残に埋め立てられてしまいました。しかし軟弱地盤問題を抱える大浦湾での工事は進まず、サンゴは生きており、ジュゴンもすぐ近くまで来ています。今、工事を止めればまだ間に合う。生き物たちは精いっぱい声を上げています。

辺野古・大浦湾は、海域生物と水鳥 5334 種（うち絶滅危惧種 262 種 — 2014 年日本生態学会など 19 学術団体）を有する、生物多様性豊かな海です。生物多様性の保全が環境危機を脱するためのカギなのは、世界の常識です。たとえばサンゴ礁生態系は、毎年海中に溶け込む二酸化炭素 20 億トンの約 10% を固定することが知られています。

すべての生き物たちと人類の未来のために、今すぐ工事をやめさせ、Hope Spot 辺野古・大浦湾を海洋保護区にしましょう。
(関西 松島洋介)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



情 勢（事務局）

新基地建設阻止の正念場～展望が見えてきた

闘う姿勢強める沖縄県

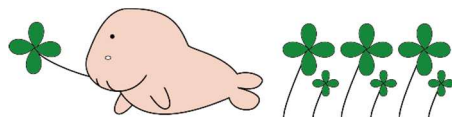
今秋、設計変更申請不承認についての最高裁判決では「沖縄県敗訴」が予想されています。また、デニー知事を支える住民訴訟では高等裁判所が住民の陳述書を事前検閲するなど反動化が進んでいます。三権分立や地方自治を破壊するさまざまな攻撃は人々の怒りを高め、7000日を超える辺野古座り込みで沖縄県も闘う姿勢を強めてきています。3月訪米したデニー知事はオカシオ・コルテス連邦下院議員らや、アジア太平洋系米国人労働者連合と面談・交流しました。4月19日沖縄県が最高裁に提出した準備書面では「不承認処分を取り消しても、変更申請中の状況に戻るだけで、（当然、別の理由での申請拒否処分もありうる）、依然として埋め立て事業を適法に実施できず…」と闘う立場を明らかにしています。6月29日沖縄県議会では環境部長が「ジュゴンの糞が発見された久志沿岸を調査する」と、辺野古工事海域周辺を独自調査すると答弁しています。

米国政府は設計変更を認めていない

4月防衛省交渉でも「米国政府は軟弱地盤による設計変更を了解しているのか」と追及しましたが曖昧な回答。再質問への文書回答でも「地盤改良については、技術検討会の内容を米側に説明している」とどまり、「軟弱地盤の改良について米側

は了解している」とは回答しませんでした。米国に軟弱地盤問題が波及することを恐れているのです。21年3月米国会計監査報告会でも「基地建設の遅れについて、国防総省から軟弱地盤の報告はない」と明言。22年6月米国シンクタンクのクインシー研究所が「軟弱で深い海底の上にV字型の埋立滑走路を完成させるといふ恐るべき技術的課題を考えると、再検討されるべき」としています。22年10月リード上院軍事委員長が「（私たちが9月に送った書簡について）軟弱地盤などについて理解を深めたい」（沖縄タイムス10/21）と答えています。

7月3日玉城デニー知事は「経済や観光の相互発展をめざす」と中国を訪問、李強首相との会談で「ビザ手続きの緩和と直行便の再開」を要請しました。琉球弧（南西諸島）のミサイル基地化が進む今、アジア太平洋地域の平和構築を進めるデニー知事の地域外交こそ広げるべきです。裁判が続く限り、軟弱地盤が改良できない限り、辺野古新基地建設はできません。生物多様性条約COP15の「30by30」をふまえて、2030年をめどに、「基地ではなく海洋保護区」をつくりましょう。日米の市民運動の絆を太くすることで、戦争の海を平和な海に変えましょう。



G7 広島ビジョンは核兵器容認～岸田内閣は締約国会議にオブ参加を

「岸田首相、ヒロシマを利用するな」。平岡敬元広島市長のこの発言は、核兵器禁止を求める市民の声そのものです。「G7広島ビジョン」は「核兵器は、それが存在する限りにおいては、防衛目的のために役割を果たす」と、核大国の主張を明記しました。原爆資料館から何を学んだのでしょうか。核兵器禁止運動を担うICANの川崎哲さんは「禁止条約や世界の核被害者の視点が抜け落ちている」と批判。核兵器禁止条約に賛成する国は国連加盟国の約2/3の128か国。署名国は92か国、批准国は68か国（23年1月現在）。核兵器全廃に向けて核兵器を包括的に禁止する条約を求める声は国際世論なのです。「G7広島ビジョン」に賛同する国は、核保有国とその取り巻きにすぎません。昨年6月、第1回核兵器禁止条約締約国会議にはドイツなど34か国がオブザーバー参加しまし

た。「核兵器保有国と非保有国の橋渡しをする」と弁解している日本政府は、オブザーバー参加すらしていません。どのように橋渡しをするのでしょうか。

今年11月27日から国連本部で第2回締約国会議が開かれます。「岸田首相、ヒロシマを利用するな」との怒りの声を聴く力があるのなら、少なくともオブザーバー参加すべきです。また、ウクライナ戦争が長期にわたり、被害が甚大になっています。ロシアには侵略中止と戦術核兵器使用禁止を求めるとともに、ウクライナ戦争即時停戦の世論を広げなければなりません。（事務局 蛭川義章）



やんばるの森を守る取り組み

沖縄防衛局との交渉報告



数年ぶりの沖縄防衛局との要請交渉

7月14日、沖縄の市民社会のメンバー5人で、2021年にユネスコ世界自然遺産に登録されたやんばるの森に残る米軍廃棄物について沖縄防衛局と要請交渉を行った。参加者は「ヘリパッドいらない」住民の会の清水暁さん、伊佐育子さん、奥間川流域保護基金の宜保保さん、宮平光一さん、そして私。米軍廃棄物問題を訴え続けてきた宮城秋乃さんからも応援の言葉をもらっていた。

やんばるの森に関しての市民社会から沖縄防衛局への要請交渉は数年ぶりであった。コロナ禍で交渉が控えられていたこともあったが、世界遺産登録過程で軍事訓練や米軍廃棄物が問題化しなかったという認識が一部であり、防衛局との交渉に意義を見出せなかったことも交渉が行われてこなかった理由といえる。

しかし、やんばるの森を「真の世界遺産に」という声のもと、世界遺産だから適用される世界遺産条約や関連指針を全面に出しての取り組みが可能になっている。SDCCはその視点から、国際的レベルではWorld Heritage Watch(NGO)と協力し、ユネスコやIUCNへ働きかけてきた。また国レベルでは省庁交渉を通して情報を収集し、そこで浮き彫りになった問題をユネスコとIUCNに報告し、解決を求めてきた。今回の沖縄防衛局との交渉は、その視点からの沖縄での取り組みの一つとなった。

質問、要請、そして回答

今回の要請交渉では、防衛局の米軍廃棄物撤去の状況とその報告書の存在を確認する質問、そしてその報告書の公開、世界自然遺産内に危険な米軍廃棄物が存在することを周知するための看板の設置の要請を行った。これらはSDCCが政府との要請交渉で確認、要請してきたことである。それを沖縄防衛局に現場の状況を踏まえて回答させ、その回答をユネスコやIUCNに報告することを目的とした。つまり交渉自体が最終目的ではなく、情報収集の場としての位置付けである。

防衛局は3人に対応してくれたが、若い担当者一人が質問には答えていた。世界遺産に登録されたことは大切であり、沖縄防衛局も廃棄物撤去の責任や役割を持つこと、それは土壌汚染対策法等に基づくものであると防衛局の見解が示された。しかし担当者は、準備した回答以外のことは言えず、質疑応答中に出てきた具体的な廃棄物

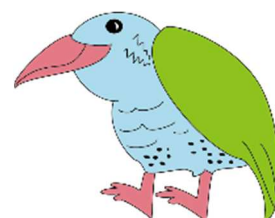
やその危険性に関する質問には答えられなかった。私からは、日本の法律だけではなく、世界遺産条約や関連指針やマニュアルを参照しながら撤去に取り組むことが「顕著な普遍的価値」を守るには不可欠であると指摘した。

また廃棄物撤去の報告書の公開や看板の設置の要請については、「検討する」「適切に対応させて頂く」というお役所回答に終始していた。それに対して私たちは不満の声をあげた。ただ、要請交渉終了後、私は広報担当に電話して、「報告書の公開についての『適切に対応させて頂く』の意味がよく分からない、『明確な回答は得られなかった』とユネスコやIUCNに報告していいか」と質問した。さらに「『適切な対応』には『公表しないという選択肢も入っている』という理解でいいか、そう報告していいか」と質問した。それに対して担当者は、公開しないのではなく、公開の時期を検討している、と答えてくれた。

要請交渉の意義

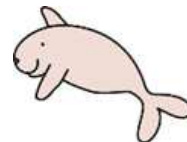
米軍廃棄物の問題は世界遺産登録地ならば当然政府が積極的に対応しないといけない問題である。しかし市民が要請交渉をしないと政府は動かない。それ自体が問題であり、それでは世界遺産は守れない。また伊佐育子さんの「世界遺産になり、フェンスの向こうにあった土地が返ってきて、そこを地域の人々が訪れることができると思っていたら、今度は米軍廃棄物が見つかり、そこに縄が張られ、入れなくなっている。この状況をどう受け止めればいいのか。これが世界遺産なのか」という訴えが米軍廃棄物問題の核心をついている。私たちはこの状況をユネスコ世界遺産センターとIUCNに伝えることにより、日米政府を動かし、やんばるの森を真の世界遺産にする取り組みを続けていきたい。

(国際担当 吉川秀樹)



沖 縄

浜テント 座りこみ1000日集会 6/18



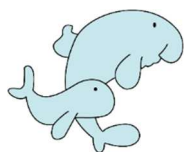
命を守る会を引き継ぐ形で2004年4月19日に浜のテント座りこみがスタートして19年と2ヶ月、この日は丁度7000日を迎える集会が開かれると聞き辺野古に駆けつけました。梅雨のさなかで心配でしたがみんなの熱気が通じたのか良い天気にも恵まれ、240名を超える「ここに基地は絶対に造らせない!」という信念を持った市民とその民意を届けますという政治家が集まりました。スタートは我らが海勢頭バンドです。「あれから7000日みんな良く頑張ってきた、この闘いの勝利はもうすぐです」と豊さんが激励した後、ザンの海、辺野古旅情の歌が、干潟の海と青い空をバックに一層心に沁みました。この先の海にジュゴンがいる、生物の宝庫であるHOPE SPOTのこの海を未来に残さなければと強く思いました。当初からのメンバーは永い19年という闘いを振り返り、天国に逝った仲間達に想いををせ、また全国から共に頑張ろうという応援がなければここまで続けてこれなかったと感謝が伝えられました。

最後は8000日目には基地は造らせなかったお祝いで集まろう、みんなでカチャーシーを踊ろう!と誓いました。更に1000日というと約3年後か・・・本当に歓喜の踊りを辺野古の浜で分かち合いたい。

(沖縄 小平裕美)



浜のテント前に集まった市民



「月桃」歌碑1周年の集い 6/22に参加しました

慰霊の日、子供達に歌い継がれる「月桃」この歌碑を建てようという話は過去に何度か持ち上がっていたが色々なタイミングで流れてきたそう。去年沖縄本土復帰50年を機会に満を持して実行された。1月に有志18名で動き出し、5メートルもの大きな自然石との出会いなど奇跡の連続により半年で建立を実現させた。1年が経ち歌碑の隣に植樹された本物の月桃が2倍に大きく育ち花を咲かせていた。

残念なことに先頭に立って歌碑建立に尽力された新里米吉さんは完成を見届けるように去年の夏に逝ってしまった。

集会は黙とうを捧げスタート、建立資金が当初目標の700万を大きく上回り全国から1400万も集まった様にこの日も近隣だけでなく関東大阪九州からもお祝いに沢山の人が集まった。祝辞、歌、三線演奏などが披露され皆で月桃を合唱し、命どう宝、戦争は2度と繰り返してはならないと翌日の慰霊の日を前に平和を祈った。この時も頭上を3機のオスプレイが飛んでいき爆音で中断される場面があり憤りを感じた。現在歌碑の所有権は実行委員会の手から集まった

資金と共に(維持費として)、西原町に寄贈され平和学習の場としても活用されている。

最後は海勢頭バンドのミニコンサート、締めはリクエストの琉球讃歌をジュゴンちゃんとSDCCの仲間達を筆頭

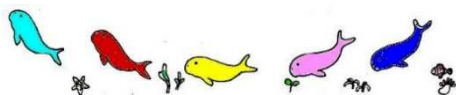
にみんなでカチャーシーを踊り、幕を閉じました。

(西原運動公園の「夕陽の広場」に建立)

(沖縄 小平裕美)



「月桃」歌碑1周年の集いで演奏する海勢頭バンド



首都圏

沖縄を再び戦場にするミサイル配備を止めよう！



－宮森630集会に参加して－



6月30日、明治学院大学にて開催された「沖縄のつどい2023」に参加し、三上智恵監督が制作中の「沖縄、再び戦場（いくさば）へ」（仮）のスピノフ上映を見て講演を聞きました。

前作「沖縄スパイ戦史」では、軍隊は住民を守らない、住民社会に軍が入ることの危険性を訴えて大きな共感を呼びました。

これまで沖縄県民は、辺野古を始め基地建設反対の声をあげ続けてきました。しかし政府は全く耳を貸さず、それどころか安保法制の改悪をして中国の侵攻の危機を煽り、島々への自衛隊進駐とミサイル配備を強行して軍備強化に突き進んでいます。

現地で暮らしその現実を見ている三上さんは、日本人の不安と恐怖が島の人たちにのしかかり、心が折れそうなほどつらいと言います。つらい中で撮り続けたスピノフ作品には、与那国島と宮古島にミサイル搬入までの様子が写されています。無料貸し出しのDVDを使って、多くの人に沖縄の現実を知らせてほしい。上映会を開いて全国的な働きかけをしてほしい。誰かの犠牲の上に成り立つ安全に

寄りかかりたくない。一人ひとりの市民がこの状況にブレーキを踏もう！沖縄の現実を知り痛みに寄り添う仲間の絆が希望だと語りました。

三上さんの熱意とそれに応えたい参加者の思いで、会場は熱く盛り上がりました。（首都圏 蟹江由美子）



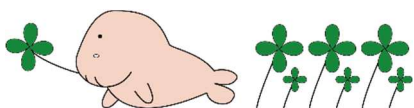
「忘れてはいけない」宮森630集会に参加した市民

関西

ぶどうの木保育園で、出張授業

6月12日に京都にあるぶどうの木保育園に行ってきました。沖縄を通して平和学習に取り組まれている園です。いろいろ学んで準備をして年長になると、3泊4日で沖縄へ平和キャンプに出かけます。伊江島や辺野古などへ。すごいなと思います。平和キャンプの前に、出張授業でジュゴンのお話をさせて頂いています。年長さんたちは、ジュゴンが大好きで海草がえさだって知っています。ヤンバルクイナのことも！そして、基地のこともわかっています。「じゅごんのおっぱいはどこかな？」と質問すると「ここー」と元気に応えてくれます。「ウミガメのおっぱいはどこ？」とかわい質問が、さて、わかりますか？辺野古の海がHopeSpot（ホープスポット）に選ばれたんだよ。みんなで守っていくんだよとお話しました。みんなでせえ～の、「ホープスポット」と声を出しました。

この子たちがHope（希望）だなんて感じました。「平和ってな、しあわせになることやで」と教えてくれた子、脱帽です。まだまだ大人ががんばらなくちゃと励まされた私たちでした。ジュゴンの折り紙やシールやリーフを配り、リーフはお家に帰ってみんなで読んでねとお願ひしました。（関西 池側恵美子）



子どもたちに Hope Spot リーフレットを配りました

交流広場

今回ご紹介するのは、「ならコープ平和の会」（組合員有志の会）の世話人をしてられる大藪由美さんです。戦跡巡り、憲法学習、核兵器廃絶、他身近なところから平和を考える取り組みや会報発行などをしてられます。沖縄の基地問題への理解をもっと深めようと2017年、2018年とじゅごんの里ツアーに参加され、沖縄から目が離せなくなってしまったそうです。

私が最初に沖縄に行ったのは2016年3月。その頃辺野古は和解中で高江もN1ヘリパット着工前でした。日生協が主催する沖縄戦跡基地巡りへの参加でしたが、この時に沖縄戦の実相と基地の現実を知り、それまでの無知を恥じ入り



ツアーの後も取り組みを
あがいていきます。



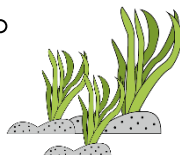
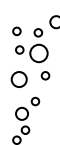
石垣島を訪れた大藪さん（左）。「いのちと暮らしを守るオーバーたちの会」の山里さん（右）と。

ました。帰ってから沖縄戦や戦後の問題を読み漁り、そうしているうちに7月、高江の凄まじい戦いが始まりました。以来私は「沖縄漬け」となりました。

私が沖縄を知ってからだけでも国の対応は一つ変わるどころか、酷くなる一方です。次々と県民の思いを無視して基地建設を強引に進めるこの国のあり方は全くおかしい、まして近年の南西諸島への急速な軍備展開は、大きく間違った道に進もうとしています。

与那国島の狭い町道を戦車が走る異様な光景に「国は本気で戦争する気なんだ」とソツとしてきました。2月半ば石垣と与那国に行きましたが、抗っても抗っても住民無視で進められる軍備、分断され、それを避けるための沈黙の島の姿がありました。

私がかつて無知であったようにこの状況を知らない人がたくさんいます。知ってしまえば、戦争であれだけひどい目にあった沖縄の人たちに、今またこんな思いをさせていいものかと誰しもが考えるはず。今私にできることはそれだと思い、私の現地視察の報告会をスピンオフ上映会とともに広げています。（奈良県在住 大藪由美）



本の紹介



「沖縄戦 最後の証言

— おじい・おばあが米軍基地建設に抵抗する理由

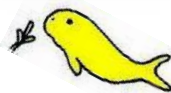
森住卓著（出版：新日本出版社）

ウクライナを支援し、台湾有事を煽り、防衛力強化と、沖縄の島々で軍事化は強行されています。戦争へまっしぐらの様相の日本。当然のように受け止めている世論。どう言えばいいのかわからず、現実には自分の身に起こることとは想像できず、戦争は人殺しということが抜け落ちているように思います。本書の沖縄戦を生き抜かれたお一人お一人の証言から戦争の実相がよくわかってきます。そして、なすべきことは何かかわかってくると思います。この夏、ぜひ読んで（読み直して）ほしい1冊です。

「二度と私と同じような目に遭ってほしくない。だから座り込んでいるの。戦わないために、今、闘っているの」「私は『集団自決（集団強制死）』の生き残りだ。もう二度と戦争はイヤだ」

「自分だけが生き残ってしまった。生き残ったところで、うれしくもない…。そう思わせてしまう戦争の後遺症は消えてくれません。同じ苦しみ子どもたちに体験させたくない。だからどこへでも出かけて子どもたちに平和の語りをしています。これは私の使命です」「一生にひとつくらい良いことをやろうと思っていますが、難しいです。私ができることは、基地建設を止めることくらい。それができたら、思い残すことはありません。でも、この海を埋めるなら、海に入っても止めるよ。」

平和への揺るぎない信念がどこからきているのか、知ってほしい。そして、それが戦争を止める力になりますように。（関西 池側恵美子）



サンとシチ - ~ころむ・コラム~



6月22日の「月桃」歌碑建立一周年の集いは、無事終わりました。蜷川夫妻をはじめSDCCの乙姫たちが応援に駆けつけてくれて、本当にありがとうございました。お陰さまでその後のスケジュールも無事にこなすことができ、ホッとしております。しかしまだ気が抜けません。何より、みんなが美味しそうに飲んでいるビールも飲まず、禁酒を続けております。

そしてこの間、色々ありました。特に平安座郷友会連合会の会長を断れない状況で引き受けてしまい、なんとか良い方向で頑張らねばなりません。6月25日(日)にはコロナ禍で中断していた平安座島のハーリー大会が復活し、朝から連合会会長として応援に駆けつけました。しかし、ハーリー船に肝心の《三巴紋》が印されておらず、落胆しました。何故なら、ハーリー船を漢字で書くと爬竜船の爬の字は龍宮神一巴を乗せている船の字で、海神祭の目的そのものが龍宮神ジュゴンを讃えて海人たちの加護を祈る祭りだからです。ところがその後のマスコミ報道を見ると、平安座島同様に各地の爬竜船から三巴紋が消えているのです。これでは南西諸島全域に自衛隊基地化を許したことになります。龍宮神ジュゴン

が怒らない訳はありません。

7月2日は五月祭で御嶽詣りをしました。西グスクの御嶽には7個の大型巻貝、東グスクには3個の大型巻貝を安置した祠があります。何故7個かと言いますと、シチは聖なるジュゴン信仰を表す「7」からきた聖なる数だからです。また、何故3個かと言いますと、サンも聖なるジュゴンを表す聖なる数3だからです。

面白いことに、沖縄タイムスの読書欄で真喜志瑤子著『古琉球の王宮儀礼とおもろさうし』の本が紹介され、その中に、王宮における尚真王と久米島出身の男性「ヒキ官人」の儀礼の実態に踏み込んで論じているという部分があるのでした。「ヒキ」とは「ヒチ」のことで、官人とは神人に対する当て字です。即ち、龍宮神を祀る私や同級生の柴引君のような神人が首里王府にはいたということになります。柴引のヒキはヒチであり、ヒチをおもろではヒキと書いていますが、果たしてそれが龍宮神ジュゴンであることまで行き着いて述べているのかどうか。急いで読まねばなりません。

海勢頭豊(うみせど ゆたか:SDCC 共同代表)

①わんさか通信★ジュゴンの①わ



戦後78年 慰霊の日

6月23日慰霊の日、今年はコロナ禍以降4年振りに一般参列者も入場制限なしで行われた戦没者追悼式。

例年以上に警備や交通規制が厳しかったのですが大阪からSDCCメンバーが来沖していて、お誘いを頂いたので、恥ずかしながら沖縄に在住しながら慰霊の日当日に初めて各地の慰霊祭を訪れたのでした(毎年テレビ中継を鑑賞)。



慰霊の日の平和の礎



魂魄の塔

今回で40回目という魂魄の塔で行われる国際反戦沖縄集会では反省と学習、ひとりひとりが平和の継承者になろうと呼びかけ戦争は二度と繰り返してはいけなと誓い祈りました。

百聞は一見にしかずと言いますが、実際に手を合わせ、語りかけている姿をみて戦争で大切な人を失う悲しみ無念を痛感しました。

平和の礎がある平和記念公園は交通規制解除のあとも多くの人が夜まで訪れていました。黒い正装に着替え杖を突き家族に支えられながら参拝へと歩くおじい、おばあの姿が目につきます。(沖縄 小平裕美)



INFORMATION



<全国・首都圏>

・2023ZENKO in 横須賀

7月29日～30日

「STOP! 戦争・貧困・原発 誰もが人らしく生きられる社会を! 国際連帯で東アジアの平和をつくる」

詳細 <https://zenko-peace.com/2023zenko>

7/30 9:30 ～12:00 ZENKO 第11分科会

第11分科会 埋め立て中止 辺野古大浦湾を海洋保護区に

横須賀市産業交流プラザ 第1会議室

・8/5 11:00～ 新宿南口スタンディング

・8/7 18:30～ 防衛省前抗議行動

主催 辺野古への基地建設を許さない実行委員会

《 今後のスケジュール 》

<関西>

・8/24 (木) ジュゴン茶話会

SDCC 関西事務所 14:00～16:00

・11/18～19 大阪自然史フェスティバル

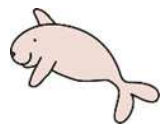
大阪市立自然史博物館

詳細 <http://www.omnh.net/npofes/2023/>



報告 第5回ジュゴンオンラインセミナー

「辺野古埋め立てをめぐる住民の訴訟」



今回は、1990 年から沖縄に住み、辺野古新基地建設の住民運動にかかわり続けてきた浦島悦子さんに、「住民の訴訟」の経過や意義、辺野古の現状についてお話をいただきました。

辺野古埋め立てをめぐるのは、県が国を相手に提訴している訴訟のほか、県が行った「埋め立て承認の撤回」と「設計変更の不承認」について国土交通相が取り消しを行ったことに対し、地元住民が国交相裁決の取り消しを求め提訴しています。

県の裁判が門前払いされ、住民の裁判でもいったん認められた原告適格が取り消されるなど、なかなか裁判の本論に入っていない状況の中、今年 3 月第 3 回口頭弁論の前日に、浦島さんの意見陳述書に対し、裁判所から文言の書き換え要求がありました。前代未聞の裁判所の事前「検閲」に唖然とします。

今後の課題は、原告適格の関門をどう突破するか。三権分立をかなぐり捨てて、行政権力と一体化しつつある司法に対してすべての市民が監視をし、司法の反動化に歯止めをかけねばなりません。この裁判の行方を左右するのは、現場での行動、そして私たち市民の声です。Hope Spot 希望の海を希望の海を未来につなぐため声を上げ続けましょう。

(関西 山根富貴子)

訴訟と現場行動は車の両輪



2022. 9.29



Editor's Note

6/23 慰霊の日 SDCC も参加する実行委員会主催で「沖縄と共に戦争に反対する平和の集い」を大阪で開催しました。講師は前泊博盛さん。「軍隊に軍隊に対応する考え方は平和はつくりえないと、実証的な資料を元に言い切られた。ウクライナ即時停戦、軍拡・辺野古基地中止をひとつに、世論を広げていきましょう。」

(M)

お詫びと訂正：前号(Vol.128) 1面巻頭言 下から二行目「安和と瀬島のホープスポット看板」の「安和」(誤)は「安部」が正でした。お詫びして訂正致します。

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL. 129 2023 年 7 月 25 日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

〒162-0815 東京都新宿区新小川町 6-38 大曲マンション 201 号

なかま共同事務所内

(関西事務所) 〒534-0025 大阪市都島区片町 2-9-21 京橋ベース 302 号

連絡は以下のメールにて受け付けております。

○ <http://www.sdcc.jp/>

○ info@sdcc.jp

会費(2000 円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 〇一九支店

口座番号 普通 0660199

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!



SDCC の website
<http://www.sdcc.jp/>
には、左記 QR コードより
アクセスできます

会員・協力者の皆さんへ

2023 年 7 月

埋め立てを中止させ、辺野古・大浦湾を海洋保護区に

線状降水帯の発生により、九州をはじめ各地で豪雨災害が発生しています。被災者の生活再建にこそ、政治は力を注ぐべきです。しかし、政府は健康保険証の廃止とマイナカードへの統合を決定し、事実上マイナカード取得を強制しようとしています。個人情報を一元的に管理し、確実に収奪する仕組みです。そして 5 年間で 43 兆円の大軍拡を行おうとしています。

この政府の暴走にストップをかけるためにも、辺野古・大浦湾の埋め立て・新基地建設をとめ、ジュゴンを守る活動の意味が高まっています。この活動は、地方自治と平和を守り、東アジアの友好的関係をつくるものであるからです。玉城デニー知事は訪中団の一員として訪中し、7 月 5 日中国首相と面談し「経済や観光の相互発展をめざす」ことを確認しあいました。沖縄県の地域外交を支持します。

今号では、2、3 面で埋め立て中止の展望を、4 月行った対政府交渉、玉城デニー知事の訪米などをふまえて明らかにしました。

また 6 月 22 日には、西原町で「月桃」歌碑一周年の集いが開催されました。SDCC メンバーも参加し、「月桃」に込められた平和のメッセージを再確認し、その後 6/23 慰霊の日の集会や石垣島にも足を延ばし、地元でミサイル配備に反対している方々との交流を深めました。4,5 面の報告記事および 6,7 面交流紙面も充実しています。ぜひご覧ください。

7 月 29 日 30 日に、横須賀市内で ZENKO2023 が開催されます。SDCC も賛同し、30 日 9:30~12:00 に横須賀市産業交通プラザ 第 1 会議室にて分科会を行います。このニュース到着直後とは思いますが、リモート配信も行います。ぜひご参加、視聴をお願いいたします。詳しくは以下を参照してください。

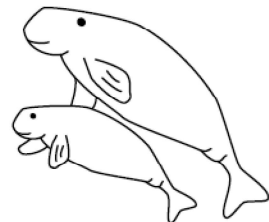
<https://zenko-peace.com/2023zenko>

この裏面に署名を印刷しております。署名および「Hope Spot」リーフレットの普及に、引き続きご協力お願いいたします。





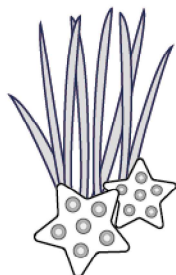
ジュゴンの海とやんばるの森を守りたい！ 辺野古のすべての工事を中止してください！



内閣総理大臣 岸田 文雄 殿

2021年11月25日、玉城デニー沖縄県知事は、沖縄防衛局による大浦湾の海底軟弱地盤の改良工事を中心とした設計変更申請に不承認判断をしました。ジュゴンやサンゴなどの環境保全策が不明確、特にジュゴンに関して、夜間航行する作業船の音響がジュゴンに与える影響を考慮していないと指摘しました。そして軟弱地盤に関しては、最も軟弱と考えられる地点での実測データがなく、地盤改良工事の科学的根拠がないと指摘しました。沖縄防衛局は裁判で玉城デニー沖縄県知事の承認を覆そうとしています。そして、「承認を受けた範囲の工事は進める」と居直り、工事を強行しています。軟弱地盤などで工事の見通しが立たない中で莫大な工事費を投入することは税金の無駄です。普天間基地の危険性を早期に除去するためにも玉城デニー沖縄県知事と協議を進めるべきです。

また海と山の自然環境は一体のものです。沖縄県北部のやんばるの森は世界自然遺産に指定されました。しかし指定地域内にある米軍北部演習場返還地には、今も膨大な米軍の軍事廃棄物が放置されています。これは世界自然遺産の運用指針に反しています。日米両政府の責任で早急に撤去してください。これが真の世界自然遺産への道です。玉城デニー沖縄県知事の設計変更不承認を強く支持し、ジュゴンの海とやんばるの森を守るため、下記を要請します。



(要請項目)

1. 玉城デニー沖縄県知事の設計変更不承認をふまえて、辺野古のすべての工事を中止すること。
2. ジュゴンに影響を与える作業船の夜間航行を直ちに停止すること。
「ジュゴン絶滅論」を英国科学雑誌に投稿した「環境監視等委員会」の委員3名を解任すること。
3. やんばるの米軍北部演習場返還地に投棄されている米軍廃棄物を直ちに撤去すること。
米軍輸送機オスプレイの訓練を停止させること。



取扱い団体（ ）

お名前	ご住所
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県
	都道府県

呼びかけ団体：ジュゴン保護キャンペーンセンター（SDCC）、じゅごんの里

署名集約先：ジュゴン保護キャンペーンセンター

署名の集約期限：2023年11月15日

〒534-0025 大阪府大阪市都島区片町2丁目9番21号 京橋ベース(旧野口ビル) 302号

TEL/FAX 06-6353-0514

★☆☆ 署名を他の目的には使用しません ★☆☆

